

流統の伝統を嚙みしめ

記録的な暑さに見舞われた今年の夏も終り、爽秋の季節を迎えました。まさに「暮雲收まり尽くして清寒溢る」(「中秋の月」蘇軾)の候です。私ども参加者に多くの感動を与えてくれた、今年の「全国吟道大会」も早く二か月前のことにになりましたが、今なおその余韻が残っています。横山岳精家元の築かれた吟道七十五の歴史の重み、横山精真宗家の新たな歴史づく

多々ち

平成 22 年 9 月

千代田岳精会弘報

吟縁に感謝

平成二十一年度岳精流指標

りへの迫力をひしひしと感じている次第です。大会役員として大変なご活躍を願った皆様にも、あらためて厚く感謝申し上げるとともに、大会に参加された皆様とともにこの大会の意義を噛みしめたいと思います。

河田和良(勲)日本吟剣詩舞振興会会長が、会誌上で、当日の「構成吟」一日本を愛す」の感想を「若さに満ちた岳精流の将来を暗示する素晴らしい番組と述べられていましたことは、印象的なことでした。

かような輝かしい伝統によって築かれてきたわが流統のなかにあって、私も千代田岳精会も一歩一歩の前進を進めておりますことは、本当に喜ばしいことでもあります。教場、分室などの「拠点」は二十四、会員数二四五名(八月一日現在)まで拡大して、活気溢れる会の体制が築かれつつあります。皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

六月三十日に行なわれた「中堅層研修会」で、私は参加の皆様と共に千代田岳精会のスタート時(昭和六十年四月)からの歩みを振り返ってみました。その一年刻みで進化した会史は、それこそ力と、その指導のもとで、吟活動に励んできた全会員の協力の成果です。わが「千代田」の強さです。

とところで、私たちの会には、先に申し上げた歩みの中から形成された、いろいろな知識、技量を磨くためのいろいろの本紙第三七号で紹介されている部門組「識図一覽中の『詩歌研修』『演奏研修』『剣詩舞研修』に加えて、最近では『自作自詠研修』や『千吟会』等が活発に活動しております。私たちは、平素の教場研修を最も大切な『吟楽』の場とすることは申すまでもないことですが、右のような研修に積極的に参加して、吟の幅を広げていくことも大切かと思ひます。それぞれの研修が特定のの一部の方の参加にとどまってしまうのは残念なことです。開催日程、場所等を確認められて多くの方の参加を提唱します。

昨年引き続き、今年の「温習会」も、各教場をA・B・Cグループに分けて三日間で開催されます。今やその準備で大童かと思ひます。全員参加で有意義な会が行なわれますようお祈りいたします。

最後に、来たる十一月十四日（日）には、全国吟剣詩舞道大会“があり、わが千代田からも十二名の代表が参加いたします。皆でご健吟を祈りたいと思ひます。



星野久風（清水）

横山岳精吟道七十五周年・横山精真宗家就任五周年記念

岳精流日本吟院「全国吟道大会」



この時期には珍しく、雨の心配の全くない六月廿日、川崎市教育文化会館に四六流派の家元、宗家、会長をこ来賓としてお迎えし、全国から千五百名を超える会員が集まり記念大会が開催されました。総本部地元会の一つである千代田の参加申し込みは男子一〇一名女子六四名の一六五名で、男女二組での合吟は圧巻でした。記念大会は家元の、日本を愛し、平和への想い、また日本の将来を託す青少年への家元・宗家の期待が込められた構成で貫かれていました。ご来賓の河田和良、日本吟剣詩舞道連盟会長、星野紫虹、神奈川県吟剣詩舞道連盟会長のご祝辞の中でも触れられ、参加者の心に深く残りました。高の吟詠十一を載せたCDが宗家の最贈られました。この上ない教材です。千代田も受付を担当した大会運営は全ての点で感銘深いものであったとの声を多くの方からいただきました。当日の役割を担当の皆さん有難う、ご苦労さまでした。



全国吟道大会の感想

丸の内第二 小山 洋三郎

四月に入会したばかりの私にとって、初めて参加した吟道大会は驚きの連続

でした。まず、九三歳の家元が豊饒とされ、力強く重厚な吟を詠じられたこと。次に、その家元が創設された岳精流が日本全国に裾野を拡げ、各地から斯くも大勢の人が参集されたこと。その三は、見事な舞台構成を岳精会の方々だけで成されたこと。そして何よりも、老若男女の出演者が日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、堂々と素晴らしい吟を披露されたことです。極新米の私はもっと練習しようとの思いに駆られました。

全国吟道大会初参加の感想

東陽町 浜本 晃平

入会して日も浅く、毎回の教室で戸惑うばかりの時、教場長の薦めで大会初参加の機会を頂きました。事前には大会案内を観て、素晴らしい大会への興味と期待を持ったと同時に、大会への不安も人知れない吟題ばかりで、退屈な一日にならないかと危惧しました。しかし、一日にプログラムの開始と共に、舞台は朝の開会から夕方まで、終始、厳粛、壮大、華麗を極め、一分の時間の無駄もなく進行し、高層の世の間の気高さ（広さ、深さ、高さ）に感動致し、アツと言う間の緊張と心地よさの一日でした。又、会場の出席者も舞台と心を一つに出会わせて頂き有難うございました。

そして、全国津々浦々、数多くの女性の方々が吟に精進し、素晴らしく、改めて感動しました。遅滞なきがらの入会で、遅々として上達ならず教室で迷惑をお掛けしてしまいますが、諸先生、諸先輩のご指導を頂きながら勉強を続けて、来年の大会にまた新たな気持ちで出席したいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

全国吟道大会に初参加して

松戸 佐藤 八一郎

全国吟道大会に初参加して色々と感動を受けました。まず感動したのは、家元の「吟道七十五周年」でした。凛然としたお姿に、一つの道を極められた方の偉大なる尊厳を強く感じました。同時に、家元の吟をテープで初めて拝聴した時の感動が蘇り、風雪の七十五年の歴史は如何なるものであったかと思いを巡らせました。特に大会の内容にも感銘しました。特にスクリーンを使った第七部の企画・演出は一流商業舞台にも匹敵する程の傑出したもので、正に七十五周年に相応しいものと感心しました。宗家を始めて、そして、スタッフの皆様やご関係された方々のご努力やご苦労が見事に結実された素晴らしい舞台でした。また、岳精会全国から参加された会員の数の多さにも驚愕しました。また、岳精会の組織が磐石であることにも感心しました。地方の会・支部・教場と本部組織の輪が確りしていればこそ小気味良い程に大会の進行がスムーズであり、会員の一人ひとりが大会を心から楽しんでいて、様子が伺えました。更に家元

一月一日付で、思いもよらぬ副会長に任命されました。毎日何かと忙しい生活をしておりますので、大躍進中の千代田岳精会の中での様にお手伝い出来るか、悩んでおります。

一所懸命お仕事をさせて頂くつもりですので、ご指導、ご協力の程、お願い致します。

四月開設の中野分室に続き、横須賀線沿線に逗葉分室が開設されました。

JR 逗子駅前から京急バス 葉桜行き
で戸坂上下車百米先

開設日 六月四日
分室長 大槻鉾風前副教場長
日時 毎月第一・第三金曜日

宮武清水教場長のご努力で逗葉地区に岳精流の拠点が生ずる。当面は四名の新会員ですが、千代田の今年目標二五拠点達成に聊か貢献することが出来嬉しく思っています。とのコメントが分室長から届いております。

鎌ヶ谷教場で、市川分室が開設されました。ご紹介は、次号となりますが、掘点とは二四となり、目標まであと一掘点となりました。

◎ 初伝

乃木將軍を挽す 杉浦 重剛
桂林莊雜詠諸生に示す（その一）

◎ 中 傳

夜墨水を下る
服部南郭
宝船
藤野君山

短歌
我が庵は 露おかぬ
太田 道灌

◎ 奥伝
飯盛山に白虎隊を弔う

東欄の梨花
白鳥 省吾
蘇 軾

俳句 夕立が 越えてゆく
山頭火

◎皆伝
意に可なり
良寛

青山の歌
（水野）頼
豊洲山陽
記

短歌、俳句は教本の中から自由選題です。

右記の短歌、俳句は八月の師範特別研修の吟題です。

全国吟剣詩舞道大会

武道館合吟コンクール

「家元吟道七十五周年・宗家就任五周年」奉賛と銘打って、十一月十四日の大会に本部男子が今年こそ優勝をと挑戦します。園田精鵬、佐藤精堂両副幹事長の指導で七月十二日から十三回の厳しい練習が始まっており、千代田からは次の十二名の方々が出場されま

す。男子として十五年振りの栄誉を目指しご健吟を期待します。

丸の内第二

清水
德本順山、望月輝泉

ハザマ
萩原晴山、中内博泉

新宿
酒井帆風

鎌ヶ谷
植村太山






























































三、二、一、〇

丸の内第二 森田準之助

今年五月十三日（木）教場の開催日

の夕日岳へ登った。この時期咲くア

細尾峠に車を置いて、そこから歩行

仲間と離れひとり先に下っていた。

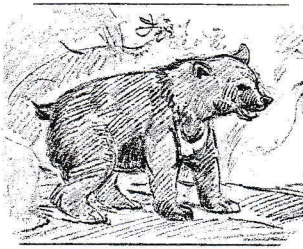
感じて振り返ると一匹の月輪熊が私

て遂に襲つてきた。一度は避けたが

も敵わないし、逃げ切れるものでも

蹴飛ばして撃退した。その場で時刻を

確認した後、すぐ現場から離れた。十分に歩いた後、ズボンと脱いで傷口を洗った。更に消毒の要請をして連絡した。仲間が追いつき、消毒や止血をして、峠まで歩いた。私は自力で救急車の待つ療で細菌感染もなく傷口は塞がった。この時期テレビなどで熊に襲われた話をよく聞いた。亡くなった人もいた。私は軽傷で済んで幸いだった。人もいた。一金を出しても出来ない体験だぞ」と我慢しているこの頃である。(七八歳)



◆「新会員紹介」

◆丸の内第一教場代々木分室
松浦保善氏(五月入会)

分室集のポスターを見られて、直接入会申し込み。詩吟は前々から関心をお持ちでした。家庭の事情で近くで通いやすいのが魅力とのこと。全

◆丸の内第二教場
権藤紘一氏(六月入会)

この六月から、山口教場長のお誘いで入会させて頂きました。まだ数回の出席ですが、岩崎先生はじめ皆

様の声に魅了され、少しづつ興味が高まってきました。多くの吟友を得す。どうぞ宜しくお願いします。

◆東陽町教場
坂下康子さん(七月入会)

約十年前に数か月入会させて頂いており、またが、両親の介護のため九州に帰って、再び詩吟の魅力にひかれ、お世話になることになりました。今度後とも宜しくお願いします。

◆宮野幸雄氏(八月入会)

大学で先輩の鈴木龍成会長から詩吟をやってみないかとのお誘いを受け、先輩のお人柄に吸い寄せられて入会しました。現在まで詩吟とは全く無縁でしたので、詩吟を通じて日本文化に触れ、お酒が美味しく飲めれば更に善しと考えております。宜しくお願いいたします。

◆東陽町教場神楽坂分室
江崎亮一氏(三月入会)

六八歳での入会ですが、お元気な諸先輩の美声を拝聴し、英気を頂きました。定年後はスポーツジムで水泳やゴルフの練習での残軀でしたが、お腹から大声を出す詩吟との出会い役立っています。

◆小松政子さん(四月入会)

その場で入会を決めました。青い先生から突如結婚で東京の新宿校の先生から三人のお子様の新宿に、ご主人と三人のお子様の新宿族、そして区議会議員(副議長)の緑の木立ちや夕焼け、犬が大好きだとい

◆東陽町教場調布分室
加藤榮子さん(五月入会)

詩吟教室の村林美恵子さんのご紹介で、調布教室の皆さんはとも明るく、親切です。又漢詩の吟詠には大変心が魅かれます。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

◆高橋登喜さん(六月入会)

興味としまして、短歌等を勉強しておりました。今度、お知り合いの木村喜久江さんから詩吟教室へのお誘いを受け見学いたしましたところ、漢詩の内容と吟詠はとも素晴らしく、教室の雰囲気も楽しく、皆さん大変親切でしたので、今後とも宜しくお願い致します。

◆お願ひいたしました。

◆廣瀬みち子さん(六月入会)

荒井さい子さんのお誘いで入会されました。調布市政の要職に在る方で、詩吟にも大変関心をお持ちになつております。荒井さんも廣瀬さんも地元のご出身、大いに調布分室を愛して下さいます。宜しくお願いします。

◆清水教場中野分室
小島正弘氏(四月入会)

住まいが国分寺のため中野分室に入会。会社定年後十年間経済産業省系財団で全国の企業審査を担当。三月退職を期に、関心のあった詩吟を、スケット・水泳・ウォーク等の趣味に加えて開始。先人の心気を正しく吟詠できる日を指し、楽しみたい。

◆清水教場逗葉分室
鈴木秀雄氏(七月入会)

本年二月に逗子の公民館で詩吟と詩舞の発表会がありました。そこで詩舞に飛び込んでみました。そこで詩舞

のバックに流れる吟詠に感動で震え
が止まらなくなりまして。先生から
その声が主が宗家と聞かされ即入会
を決めました。以来楽しく大声で稽
古に励んでいます。

◇花輪恒子さん(二月入会)

来、昨年暮、旧友の田中さだ子さんが
弾き語りして曲をコンダクターがよ
く胸が一杯になった。幼い頃父がさ
で、胸が一杯になった。一月に教室を
見、熱心な指導のもと、池田康風先生
に励みたいと思っている。

◇草間富子さん(五月入会)

の、日暮里駅前の名刹「本行寺」の奥
様の合間の旅行が趣味の忙しいお寺の
舞を習いはじめ、一年、先日の城南
寿大会では披露に「鞭声」を博しま
可憐な演技を披露し、大喝采を博しま
詩吟でも筋がよく、期待の新人です。

◇太田隆氏(二月入会)

の、昨年十一月「明生」ときわ「B」が柏
の、ホテルで開催され、共小西重成氏
と、一席に勧めました。年賀状で松戸
我、孫子合、新年会に誘い、当日ご出
席、の、宗家にも紹介、入会となりまし
いた、非常な熱心で入室の先輩達と競
今、の、飛躍が期待されます。

◇山本真理子さん(五月入会)

◇新宿教場

坂下光夫氏(六月入会)
暮敵でもある友人加納隆泉氏に勧
められ、この度新宿教場に入会いた
し、しました。経験は皆無で、ご迷惑に
ならぬ、人達と心配で、たが、親切に
優しい人達、皆様の指導をお願いいた
します。

◇新宿第二教場

横手英毅氏(六月入会)
め、吟の会へ入会させて貰ってあらた
め、俗に言うハナタケ、後、高鼻の術
全、く、出、ま、せ、ん、出、そ、う、と、す、る、息、が
ス、ッ、ト、逃、げ、ま、す、出、そ、う、と、す、る、息、が
を、入、れ、る、時、に、接、続、が、外、れ、て、空、を、切、る
様、な、状、態、に、な、り、ま、す、外、れ、て、空、を、切、る
訓練、で、回、復、で、き、る、の、か、頑、張、り、ま、す、の、で
の、紹介、です、お願い、します、加、納、隆、泉、氏
宇、田、川、靖、氏、(七月入会)
O、C、O、L、F、(2)G、Y、M、(1)S、P、O、R、T、S、(1)G、
U、C、O、L、F、(2)G、Y、M、(1)S、P、O、R、T、S、(1)G、
大、学、へ、散、歩、が、て、ら、(一、般、教、養、近、所、の、
D、(英、語、)⑥、I、G、N、O、G、⑤、R、A、O、M、B、G、T、O、K、A、U、
(安、く、て、美、味、し、い、店、を、探、す、酒、井、君、
の、この、度、で、入、会、⑧、G、I、N、(詩、吟、)が、加、

わってGエイトとなりまして。吟
悪友はもう一つGのつく何か、吟
て、いる、と言います、今は更に、吟
豊かな生活を願っています。

◆福島 越風氏(神田休会中)

平成廿二年七月廿五日逝去され
ました。総本部広報部長、神田教場
副教場長等、を歴任されました。享年
八十四歳。ご冥福をお祈り致します。



編集後記

異常な暑候が、異常と言えなく
昨、今、大、きな、傷、跡、を、残、し、た、梅、雨、が、明、け、た、途、端、に
全、国、的、な、猛、暑、が、続、き、熱、中、症、で、亡、く、な、る、人、が、各、地、で、出、て、い、る、こ、の、極、端、な
に、何、処、か、行、き、た、の、風、情、が、あ、る、こ、の、極、端、な
は、老、人、と、言、え、ば、多、く、超、高、齢、者、の、生、死、や、所、
在、不、明、が、全、国、で、多、数、判、明、な、家、族、制、度、と、所、
倫、理、観、の、崩、壊、は、多、数、判、明、な、家、族、制、度、と、所、
前、に、居、る、人、の、失、踪、は、多、数、判、明、な、家、族、制、度、と、所、
索、願、に、居、る、人、の、失、踪、は、多、数、判、明、な、家、族、制、度、と、所、
う、は、懐、疑、に、思、え、る、等、法、的、的、に、合、意、と、能、力、
の、欠、け、た、若、い、親、達、の、問、題、と、合、意、と、能、力、
徳、教、育、を、放、棄、し、た、戦、後、教、育、の、歪、み、が、噴、
き、出、た、若、い、親、達、の、問、題、と、合、意、と、能、力、
も、総、本、部、の、報、告、に、感、じ、た、福、島、越、風、氏、の、経、済、記、者、
と、去、さ、れ、た、活、躍、さ、れ、た、著、書、も、多、か、つ、た、人、(八、田、)
長、い、間、有、難、う、ご、ざ、い、ま、し、た、(八、田、)